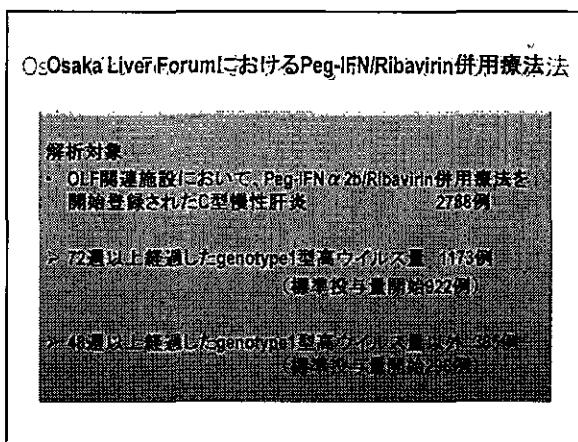
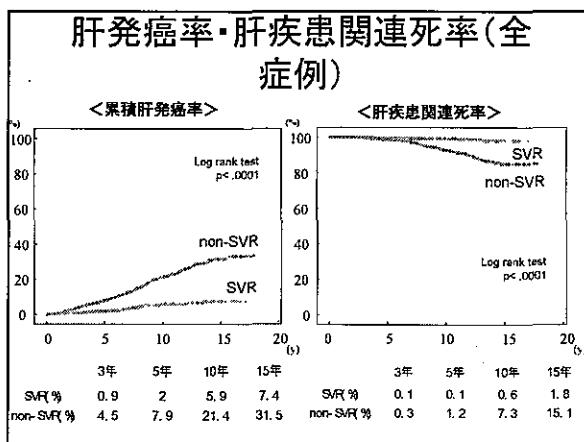
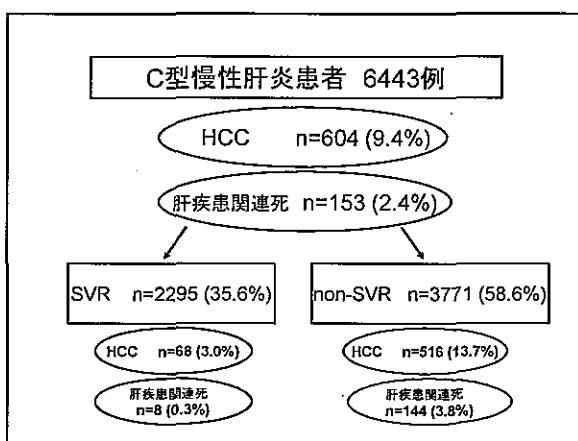
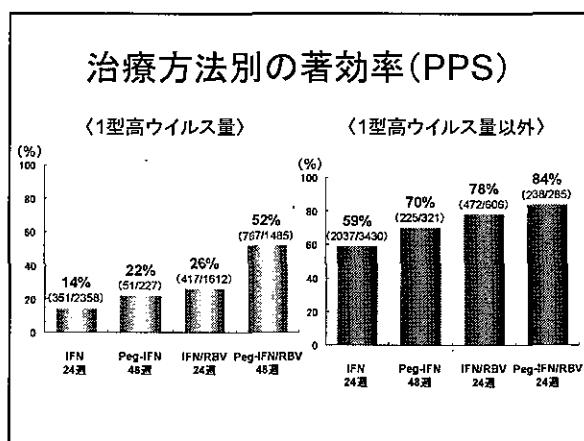


## 肝機能障害について (今後の肝炎治療)

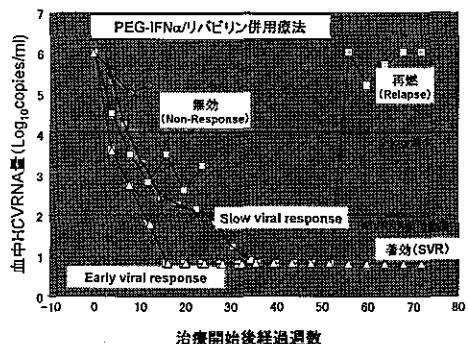
大阪大学医学部附属病院院長  
林 紀夫

### C型肝炎に対するインターフェロン治療の変遷

- IFN単独治療 (1992年)
- IFNとリバビリンの併用 (2001年12月)
- IFN長期投与 (2002年2月)
- Peg-IFN  $\alpha$ -2a単独治療 (2003年12月)
- Peg-IFN  $\alpha$ -2bとリバビリンの併用 (2004年12月)
- 在宅自己注射 (2005年4月)
- Peg-IFN  $\alpha$ -2bとリバビリンの併用の適応拡大 (2005年12月)
- Peg-IFN  $\alpha$ -2aとリバビリンの併用 (2007年3月)

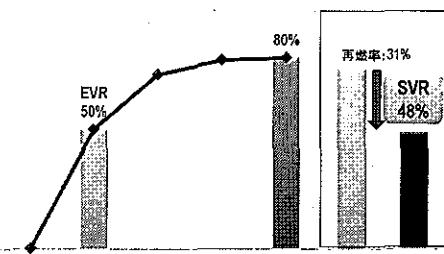


IFN治療における血中HCV RNA量の変動と治療効果の判定



Genotype 1型高ウイルス量の治療成績

経時的HCV-RNA陰性化率、著効率  
—1High, PPS解析、標準投与量開始例—



性別・年齢別の著効率

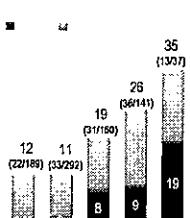
—1High, PPS解析、標準投与量開始例—

	男性	女性	p value
65歳未満	49.7% (148/298)	53.8% (98/182)	0.37
65歳以上	38.2% (21/55)	31.1% (19/61)	0.43
p value	0.12	<0.01	

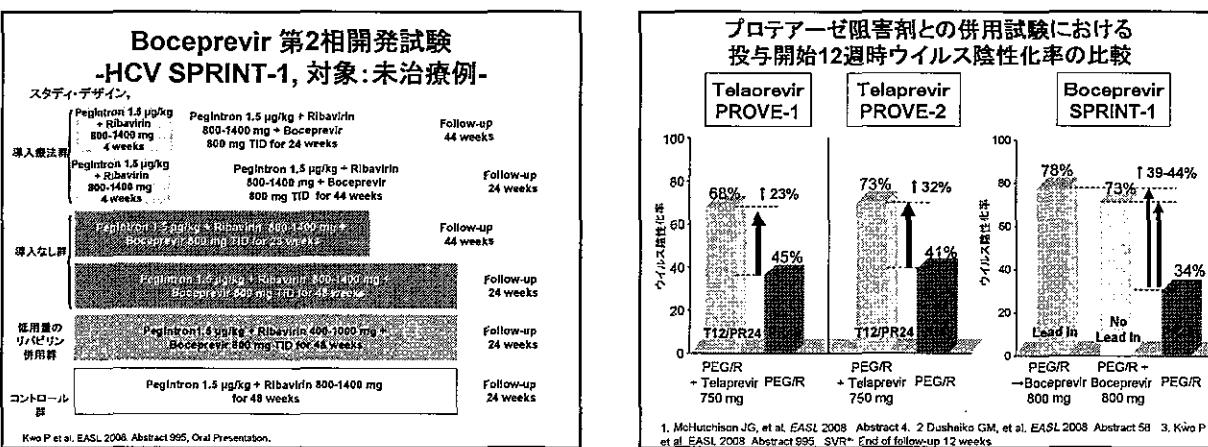
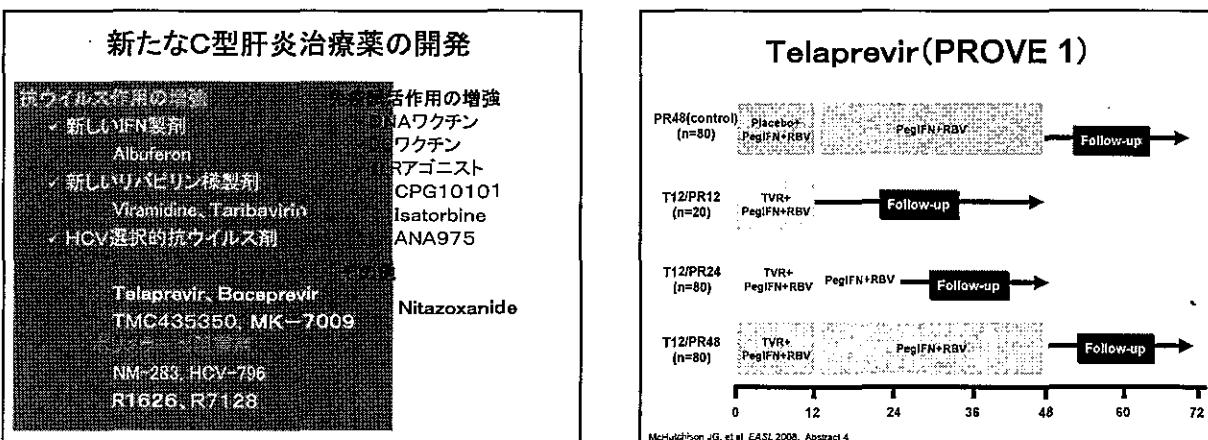
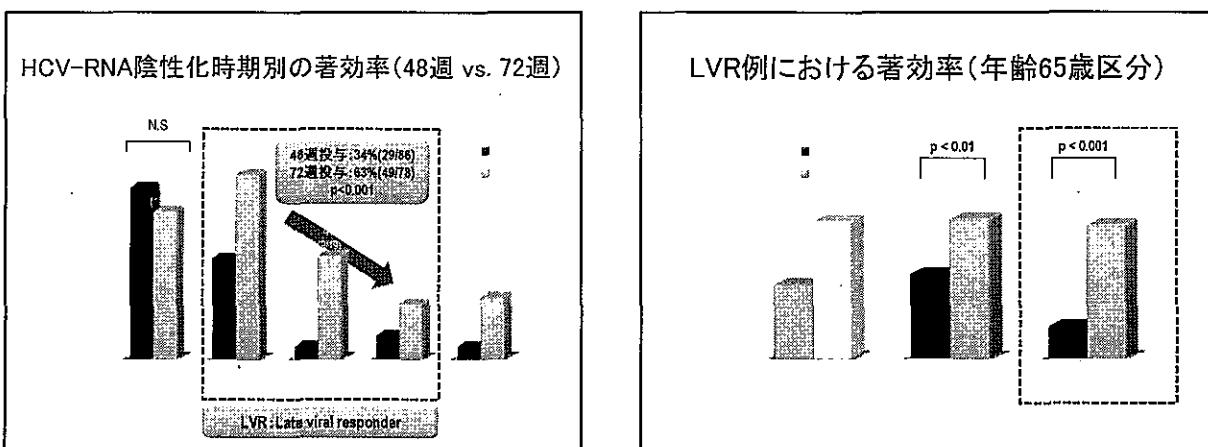
副作用中止率(48週まで、Ribavirin単独中止を含む)  
—1High、標準投与量開始例—

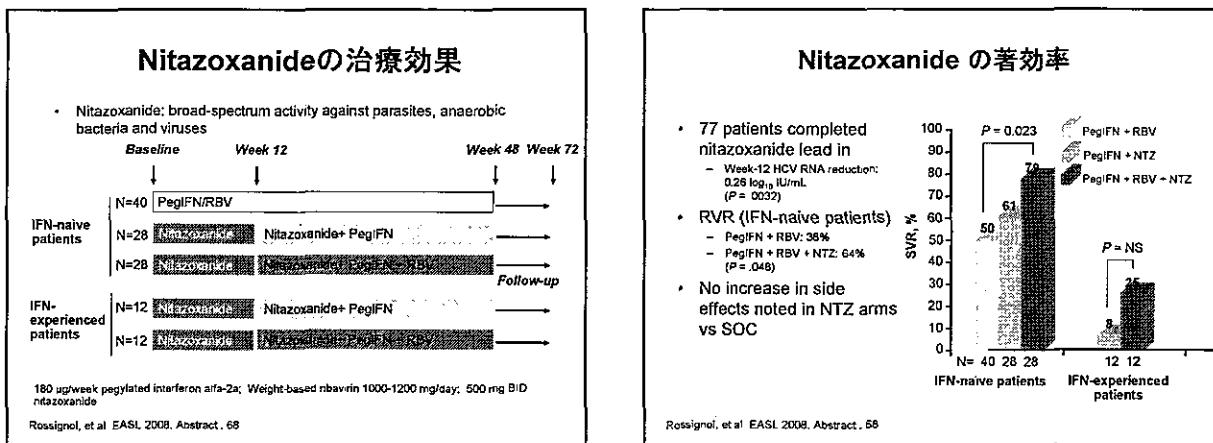
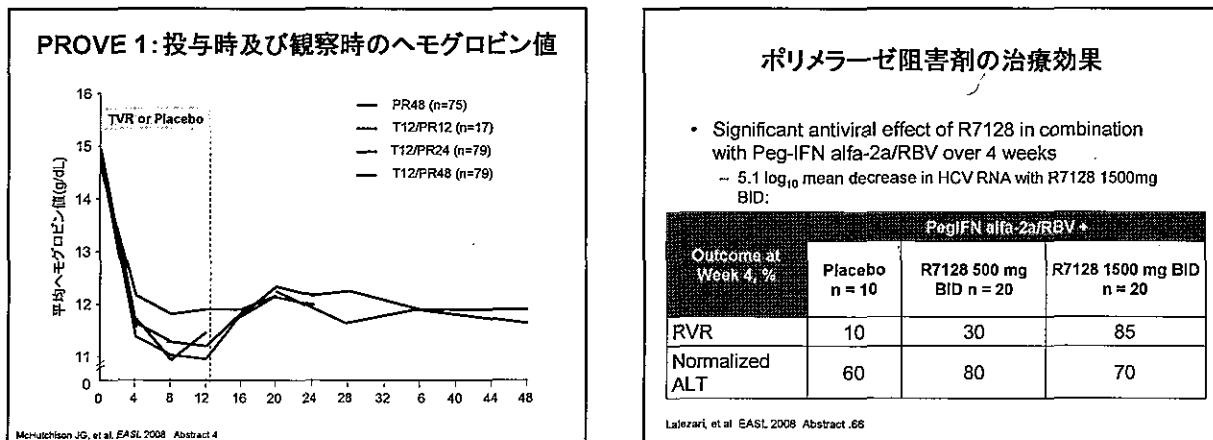
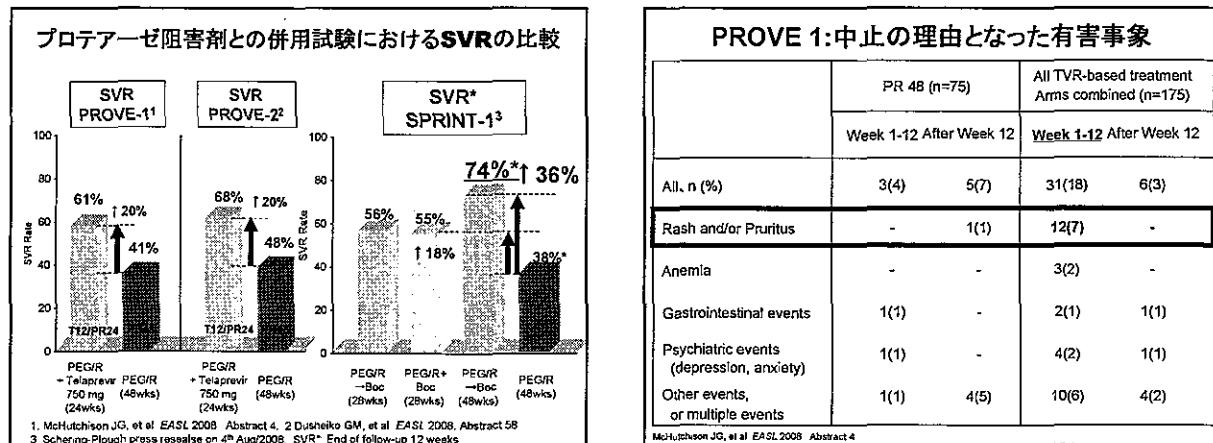
副作用中止率 17% (135/819)		
中止理由	<65y.o.	65y.o.以上
貧血・ヘモグロビン減少	19 (22%)	19 (39%)
発疹・搔痒症	13 (15%)	8 (16%)
嘔吐	8 (9%)	4 (8%)
肝炎	2 (2%)	6 (12%)
白血球減少 好中球減少	5 (6%)	2 (4%)
精神症状(鬱以外)	7 (8%)	
甲状腺機能異常	4 (5%)	1 (2%)
倦怠感	4 (5%)	
脳出血・脳梗塞	1 (1%)	1 (2%)

年齢別の副作用中止率



72週延長投与の治療効果





### B型肝炎における抗ウイルス療法

#### 1) インターフェロン

- インターフェロン $\alpha$ 、インターフェロン $\beta$  6ヶ月投与
- ベグインターフェロン $\alpha$ 2a 1年間投与 (臨床試験予定)

#### 2) HBV逆転写酵素阻害剤

- ラミブジン (lamivudine) (2000年9月)
- アデフォビル (adefovir dipivoxil) (2004年10月)
- エンテカビル (entecavir) (2006年7月)
- テノフォビル (Tenofovir) 他

#### 3) インターフェロン、逆転写酵素阻害剤併用療法

### B型肝炎患者に対する抗ウイルス治療の目標

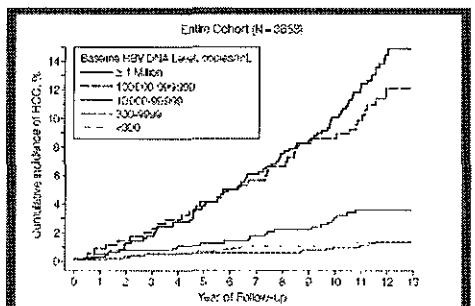
肝内の炎症の沈静化  
(ALTの正常化)

B型肝炎ウイルスの増殖抑制  
(HBV DNA低下、HBe抗原  
セロコンバージョン)

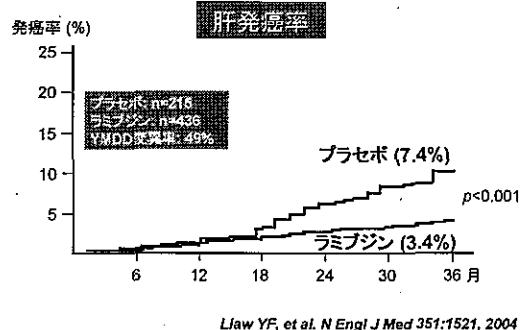


肝病態進展抑制  
(肝硬変、肝癌への進展抑制)

### HBV DNA量と肝癌発症率



### 肝硬変例に対する長期ラミブジン投与の治療効果



### B型肝炎患者の抗ウイルス治療の問題点

- 持続的著効を示す例は少ない  
(治療を止めると再燃する例が多い)
- 治療が長期化  
(治療を終了する判断が難しい)
- 薬剤耐性化  
(新しい抗ウイルス剤との併用が必要)
- 医療費  
(多剤併用療法は医療費がかかる)